



# 老人イメージに関する調査(2) : 看護大学生と一般大学生との比較

今井, 雪香  
片岡, 万里  
柳田, 泰義

---

**(Citation)**

神戸大学発達科学部研究紀要, 6(1):225-233

**(Issue Date)**

1998-09

**(Resource Type)**

departmental bulletin paper

**(Version)**

Version of Record

**(JaLCD0I)**

<https://doi.org/10.24546/81000332>

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000332>



## 老人イメージに関する調査 (2)

－看護大学生と一般大学生との比較－

今井雪香\*、片岡万里\*\*、柳田泰義\*\*\*

Reserch on Images for Elderly (2)

－Compared Nursing Students and Regular Students－

Yukika Imai\*、Mari Kataoka\*\*、Yasuyosi Yanagida\*\*\*

### I. はじめに

高齢社会に入り、高齢者の看護が重要な課題になりつつある状況の中で、看護学生への老人看護学教育の必要性が高まっている<sup>1)</sup>。

多くの大学生は核家族の中で育ち、老人と間近に接する機会が少なくなっている。従って、現在の学生が老人についてどのようなイメージを抱いているかを把握することが、教育内容・方法を考慮する上で不可欠と思われる。

これまでに、看護学生の老人イメージについては、老人看護学の授業の前後でのイメージの変化<sup>2)</sup>、老人看護学の臨床実習の前後でのイメージの変化<sup>3)~5)</sup>、看護短大生と一般短大生との老人イメージの比較など<sup>6) 7)</sup>の報告がある。しかし、看護大学生と一般大学生の老人イメージの比較は少ない。今回、看護大学生のもつ老人イメージの特性を明らかにするために、一般大学生と比較検討した。

### II. 調査方法

#### 1. 調査対象

調査対象は、A大学医学部保健学科看護学専攻2年次生82名であった。比較対照群は、女子学生の多い看護大学生に対して、男子学生の多い工学部生2年次生94名を選んだ。平均年齢は、看護学生が19.7歳、工学部生20.2歳であった。看護学生は老人看護学の講義はまだ受講していなかった。

\* 大阪大学医学部保健学科

\*\* 神戸大学医学部保健学科

\*\*\* 神戸大学発達科学部人間行動・表現学科

(1998年4月30日 受付)  
(1998年6月3日 受理)

## 2. 調査方法と内容

自記式の調査票を用いて、平成9年7月から11月に調査した。調査は、各学部の単位認定者の了解のもとに実施した。調査に際し、研究者の1人が調査内容を説明し、調査協力の了解が得られた学生に調査票を配布した。回収された調査票は全てコード化し、学生が特定されないように配慮した。

調査内容は、老人との生活体験を含む属性と、老人イメージであった(資料1)。老人イメージは、保坂ら<sup>8)</sup>によって1988年に開発された調査票を用いた。これは、SD法(Semantic Differential Method)、50形容詞対からなる尺度である。老人イメージの50項目は7段階で評定し、点数が低くなるほど否定的イメージが強く、高くなるほど肯定的イメージが強くなるように点数化した。資料1では、見やすくするために、尺度の左側が否定的な形容詞になるように配列した。調査に用いた質問紙には、肯定的な形容詞と否定的な形容詞が並べ変えられた逆転項目を含んでいた。

## 3. 分析方法

看護学生と工学部生のもつ老人イメージを比較するために、老人イメージ50項目について母平均値の差の検定を行った。また、老人との生活体験などの対象者の属性の違いによる老人イメージを比較するために、各学部生について老人イメージ50項目各項目について母平均値の差の検定を行った。統計処理は、統計パッケージHALBOUを用いて行った。

## Ⅲ. 結果

### 1. 対象者の属性

調査対象の属性を表1に示す。対象の性別については、看護学生は女性が、工学部生には男性が多かった。

対象者と老人との生活体験について表2に示す。老人との同居については、現在同居している学生は13.6%であった。下宿中で帰省時に老人と同居している学生を含めると27.3%であった。なお、対象者の祖父母の90%以上が、健康状態が良好であった。

次に、大学教育以前に老人教育については「受けたことがある」と答えた学生は、19.3%であった。老人問題に対する関心については、「関心がある」と答えた学生は29.0%であった。各学部では「関心がある」と答えた学生は、看護学生は40.2%で、工学部生は19.1%であった。

表1 対象者の属性

	全体	看護学生	工学部生
配布数(人)	176	82	94
有効回答数(人)	176	82	94
回収率(%)	100	100	100
性別 人(%)			
男	96 (54.5)	3 (3.7)	93 (98.9)
女	80 (45.5)	79 (96.3)	1 (1.1)

資料1

●あなたとお年寄りとの関係についておうかがいします  
該当するものを選んで下さい

1.老人との同居について、現在の状況をおたずねします  
1) 曾祖母、祖父母、或いは身内の老人の誰かと同居しています

1.はい 2.いいえ

2) 家に帰ると曾祖母、祖父母、或いは身内の老人の誰かと同居していますか

1.はい 2.いいえ

★1)と2)のいずれかの質問に「はい」と答えられた方、  
曾祖母、祖父母の健康状態はどうですか

1.病院（施設）に入っている 2.家にいるが殆ど寝ている  
3.何とか元気である 4.元気である

2.大学入学以前の学校教育で、老人について学びましたか

1.かなり学んだ 2.少し学んだ 3.あまりない 4.ない

3.老人問題についてのテレビや、小説、記事などを見ますか

1.とてもよく見る 2.よく見る 3.あまり見ない 4.見ない

●あなたご自身のことについておうかがいします

あなたの年齢は  歳

性別  1.男  2.女

●あなたは老人に対して、どのようなイメージを持っていますか。次の尺度のあてはまる箇所○印をつけて下さい

	ど ち ら で		ど ち ら で		ど ち ら で	
	非 常 に	か な り	や や	も な い	や か な り	非 常 に
1) 消極的	<input type="checkbox"/>	積極的				
2) 不自由な	<input type="checkbox"/>	自由な				
3) 憎らしい	<input type="checkbox"/>	愛らしい				
4) 固い	<input type="checkbox"/>	やわらかい				
5) 粗い	<input type="checkbox"/>	細かい				
6) 騒がしい	<input type="checkbox"/>	静かな				
7) 鈍い	<input type="checkbox"/>	鋭い				
8) 保守的	<input type="checkbox"/>	進歩的				
9) 不安定	<input type="checkbox"/>	安定				
10) 悲しい	<input type="checkbox"/>	うれしい				
11) だらしない	<input type="checkbox"/>	きちんとした				
12) 内向的	<input type="checkbox"/>	外向的				
13) 地味な	<input type="checkbox"/>	派手な				
14) 空っぽな	<input type="checkbox"/>	満たされた				
15) 灰色	<input type="checkbox"/>	バラ色				
16) 暇そう	<input type="checkbox"/>	忙しそう				
17) 受動的	<input type="checkbox"/>	能動的				
18) 暗い	<input type="checkbox"/>	明るい				
19) 主観的	<input type="checkbox"/>	客観的				
20) 弱い	<input type="checkbox"/>	強い				
21) 反発	<input type="checkbox"/>	同調				
22) 魅力のない	<input type="checkbox"/>	魅力のある				
23) 依存的	<input type="checkbox"/>	自立的				
24) 小さい	<input type="checkbox"/>	大きい				
25) 愚かな	<input type="checkbox"/>	賢い				
26) 非生産的	<input type="checkbox"/>	生産的				
27) きたない	<input type="checkbox"/>	きれい				
28) 貪欲な	<input type="checkbox"/>	無欲な				
29) 狭い	<input type="checkbox"/>	広い				
30) 貧弱な	<input type="checkbox"/>	立派な				
31) 低俗な	<input type="checkbox"/>	高尚な				
32) 強情な	<input type="checkbox"/>	素直な				
33) 不幸な	<input type="checkbox"/>	幸福な				
34) つめたい	<input type="checkbox"/>	あたたかい				
35) 単純な	<input type="checkbox"/>	複雑な				
36) 弱々しい	<input type="checkbox"/>	たくましい				
37) 貧しい	<input type="checkbox"/>	豊かな				
38) 劣った	<input type="checkbox"/>	優れた				
39) 感情的	<input type="checkbox"/>	理想的				
40) 厳しい	<input type="checkbox"/>	優しい				
41) 疎遠な	<input type="checkbox"/>	親密な				
42) 悲観的	<input type="checkbox"/>	楽観的				
43) 静的	<input type="checkbox"/>	動的				
44) 孤立	<input type="checkbox"/>	連帯				
45) 遅い	<input type="checkbox"/>	速い				
46) 目立たない	<input type="checkbox"/>	目立つ				
47) 不満	<input type="checkbox"/>	満足				
48) いばった	<input type="checkbox"/>	へりくだった				
49) 無能な	<input type="checkbox"/>	有能な				
50) 閉鎖的	<input type="checkbox"/>	開放的				

表2 対象者と老人の生活体験

	人 (%)		
	看護学生 (N=82)	工学部生 (N=94)	全体 (N=176)
老人と			
同居	12 (14.6)	12 (12.8)	24 (13.6)
同居でない	70 (85.4)	82 (87.2)	152 (86.4)
帰省時には老人と			
同居	23 (28.0)	25 (26.6)	48 (27.3)
同居でない	59 (72.0)	69 (73.4)	128 (72.7)
老人教育を			
受けたことがある	19 (23.2)	15 (16.0)	34 (19.3)
受けたことがない	63 (76.8)	78 (83.0)	141 (80.1)
無回答	0	1 (1.0)	1 (0.6)
老人問題に			
関心がある	33 (40.2)	18 (19.1)	51 (29.0)
関心がない	49 (59.8)	75 (79.8)	124 (70.5)
無回答	0	1 (1.1)	1 (0.5)

## 2. 看護学生と工学部生の老人イメージの比較

看護学生と工学部生のもつ老人イメージを比較した(図1)。両学部とも平均点が4点以下の項目が多く否定的イメージに傾いていた。

看護学生は工学部生に比べ、老人を「愛らしい」「派手な」「バラ色」「忙しそう」「受動的」「暗い」「反発」「自立的」「生産的」「きたない」「狭い」「貧弱な」「低俗な」「たくましい」「感情的」「疎遠な」「速い」「目立たない」「不満」「いばった」「無能な」「開放的」とイメージしていた( $P < 0.01$ )。また、看護学生の方が工学部生より、「不安定」「主観的」「連帯」というイメージを強く持っていた( $P < 0.05$ )。

工学部生は看護学生に比べ、老人を「固い」「きちんとした」「小さい」「無欲な」「あたたかい」「豊かな」「優れた」「優しい」とイメージし( $P < 0.01$ )、「小さい」というイメージを強く持っていた( $P < 0.05$ )。これら統計的に有意差が認められた項目では、看護学生の方が工学部生より平均点の低い項目が多く、老人を否定的にイメージする傾向があった。

## 3. 老人との同居の有無による老人イメージの比較

祖父母と同居し、身近に老人と接する機会の多い学生(以下同居群)と、同居しておらず身近に老人がいない学生(以下非同居群)とでは、老人イメージがどのように違いがあるかを明らかにするために、老人イメージの各質問項目の母平均値の差の検定を行った(表3)。

看護学生については、同居群は非同居群に比べ、老人に対して「忙しそう」「親密な」というイメージを強く持ち( $P < 0.05$ )、「弱い」とイメージする傾向があった( $P < 0.1$ )。非同居群は同居群に比べ、老人に対して「非生産的」とイメージする傾向があった( $P < 0.1$ )。工学部生については、同居群は非同居群に比べ、老人に対して、「賢い」「親密な」というイメージを強く持ち( $P < 0.05$ )、「細かい」とイメージする傾向があった( $P < 0.1$ )。

次に、現在下宿中の学生で、帰省先では老人と同居している学生を同居群に含み、同居の有無による老人イメージの比較を行った(表4)。看護学生については、同居群は非同居群に比べ、老人を「弱い」とイメージし( $P < 0.01$ )、「優しい」「親密な」というイメージを強く持っていた( $P < 0.05$ )。また、同居群の方が非同居群より、「やわらかい」とイメージする傾向があった( $P < 0.1$ )。非同居群は同居群に比べ、老人に対して「きちんとした」とイメージする傾向があった( $P < 0.1$ )。工学部

老人イメージに関する調査(2) —看護大学生と一般大学生との比較—

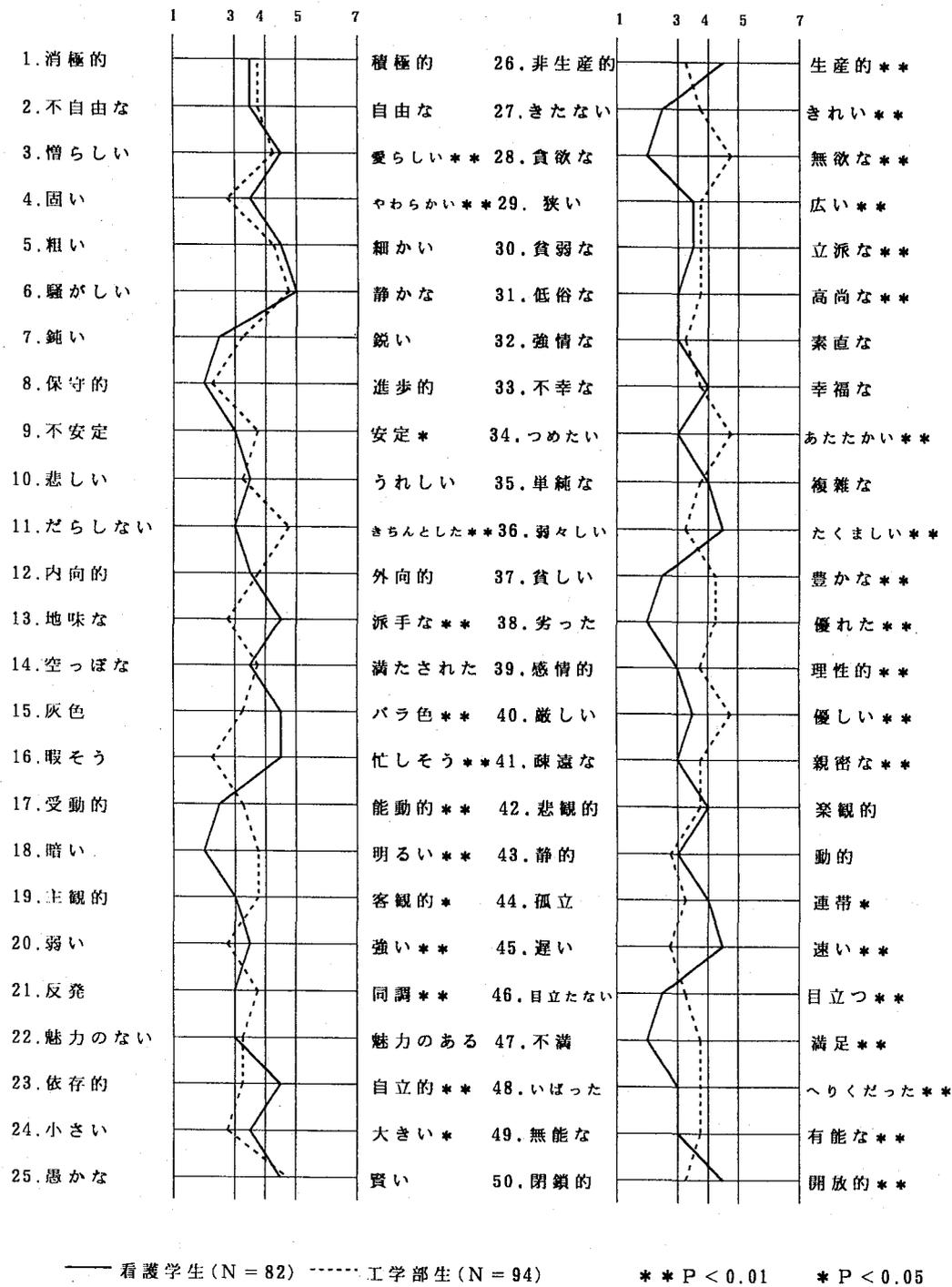


図1 看護学生と工学部生の老人イメージの比較

表3 老人との同居の有無による学生の老人イメージの比較

項目	看護学生		工学部生		平均点(±標準偏差)
	同居 n=12	非同居 n=70	同居 n=12	非同居 n=82	
Q5 粗いー細かい	4.67(±1.07)	4.43(±1.19)	4.79(±1.50)	3.99(±1.04)	+
Q18 暇そうー忙しそう	4.33(±0.65)	3.84(±1.15)	3.83(±1.27)	3.77(±0.88)	
Q20 弱いー強い	2.67(±0.65)	3.08(±1.08)	2.96(±1.71)	2.78(±0.97)	+
Q25 おろかなー賢い	5.25(±0.97)	4.74(±1.24)	5.21(±1.12)	4.43(±1.02)	*
Q26 非生産的ー生産的	3.92(±1.38)	3.09(±1.23)	3.63(±1.67)	3.07(±0.99)	+
Q41 疎遠なー親密な	5.00(±1.35)	4.09(±1.27)	4.29(±1.10)	3.60(±1.25)	*

※ 統計的に有意差がみられた項目のみ記載した \* p<0.05 + p<0.1

表4 帰省時に老人との同居の有無による学生の老人イメージの比較

項目	看護学生		工学部生		平均点(±標準偏差)
	同居 n=23	非同居 n=59	同居 n=25	非同居 n=69	
Q4 固いーやわらかい	4.00(±1.48)	3.36(±1.10)	2.46(±0.91)	3.15(±1.05)	**
Q11 だらしないーきちんとした	4.13(±1.01)	4.68(±1.21)	4.70(±1.29)	4.64(±1.21)	*
Q20 弱いー強い	2.48(±0.73)	3.23(±1.07)	2.90(±1.23)	2.77(±1.03)	**
Q40 厳しいー優しい	5.35(±1.03)	4.66(±1.25)	4.54(±1.19)	4.00(±1.00)	*
Q41 疎遠なー親密な	4.78(±1.20)	4.00(±1.30)	4.06(±1.04)	3.55(±1.29)	+

※ 統計的に有意差がみられた項目のみ記載した \*\* p<0.01 \* p<0.05 + p<0.1

生については、同居群は非同居群に比べ、老人を「固い」とイメージし (P<0.01)、「親密な」とイメージする傾向があった (P<0.1)。

#### 4. 老人教育を受けた経験の有無による老人イメージの比較

大学入学以前に老人について教育を受けた機会があるかどうかを比較することで、学生の老人イメージにどのような違いがあるかを明らかにするために、老人イメージの各質問項目の母平均値の差の検定を行った (表5)。

看護学生については、老人教育を受けたことがある学生は受けたことがない学生に比べ、老人に対して「賢い」というイメージを強く持ち (P<0.05)、「愛らしい」とイメージする傾向があった (P<0.1)。老人教育を受けたことがない学生は受けたことがある学生に比べ、老人に対して、「依存的」「複雑な」「閉鎖的」とイメージする傾向があった (P<0.1)。工学部生については、老人教育を受けたことがある学生は受けたことがない学生に比べ、老人に対して「あたたかい」というイメージを強く持ち (P<0.05)、「賢い」「親密な」とイメージする傾向があった (P<0.1)。

これらの結果から、老人教育を受けたことがある学生の方が受けたことがない学生より、老人を肯定的にイメージする傾向があることが示唆された。

#### 5. 老人問題への関心の有無による老人イメージの比較

老人問題に関心があるかどうか老人についてのテレビや小説、記事を見るかどうか質問し、学生の老人イメージにどのように違いがあるか検討した (表6)。

看護学生では、老人問題に関心がある学生は関心がない学生に比べ、老人に対して「魅力のある」「親密な」というイメージを強く持っていた (P<0.05)。工学部生については、関心がある学生は

## 老人イメージに関する調査(2) -看護大学生と一般大学生との比較-

関心がない学生に比べ、老人に対して「狭い」というイメージを強く持ち ( $P < 0.05$ )、関心がある学生の方が関心がない学生より、「鈍い」「主観的」「不満」とイメージする傾向があった ( $P < 0.1$ )。また、老人問題に関心がない学生は関心がある学生に比べ、老人に対して「無欲な」「遅い」とイメージする傾向があった ( $P < 0.1$ )。

表5 老人教育の違いによる学生の老人イメージの比較

	平均点 (±標準偏差)			
	看護学生		工学部生	
	受けたことがある n=19	受けたことがない n=63	受けたことがある n=15	受けたことがない n=78
Q3 憎らしい-愛らしい	4.90(±0.94)	4.44(±0.78) +	4.20(±0.68)	4.00(±0.76)
Q23 依存的-自立的	3.76(±1.43)	3.14(±1.18) +	3.63(±1.17)	3.12(±1.25)
Q25 愚かな-賢い	5.26(±1.10)	4.68(±0.98) *	4.90(±0.76)	4.49(±1.07) +
Q34 つめたい-あたたかい	5.29(±1.22)	5.01(±1.03)	5.17(±0.70)	4.64(±1.18) *
Q35 単純な-複雑な	3.57(±1.12)	4.14(±1.01) +	4.00(±0.93)	3.81(±1.06)
Q41 疎遠な-親密な	4.63(±1.34)	4.10(±1.29)	4.17(±1.10)	3.62(±1.25) +
Q50 閉鎖的-開放的	3.84(±1.07)	3.37(±0.99) +	3.43(±0.98)	3.46(±0.91)

※ 統計的に有意差がみられた項目のみ記載した \*  $p < 0.05$  +  $p < 0.1$

表6 老人問題への関心度の違いによる学生の老人イメージの比較

	平均点 (±標準偏差)			
	看護学生		工学部生	
	関心がある n=33	関心がない n=49	関心がある n=18	関心がない n=75
Q7 鈍い-鋭い	3.03(±0.95)	2.92(±1.06)	2.75(±0.81)	3.17(±1.17) +
Q19 主観的-客観的	3.17(±1.19)	3.43(±1.02)	3.19(±1.53)	3.95(±1.20) +
Q22 魅力のない-魅力のある	4.05(±1.06)	3.55(±1.06) *	3.42(±0.94)	3.44(±1.11)
Q28 食欲な-無欲な	4.50(±1.30)	4.37(±1.35)	4.19(±0.93)	4.67(±1.04) +
Q29 狭い-広い	3.53(±1.24)	3.90(±1.26)	3.53(±0.50)	3.92(±0.91) *
Q41 疎遠な-親密な	4.63(±1.28)	3.94(±1.28) *	4.41(±1.24)	3.78(±1.24)
Q45 遅い-速い	2.79(±0.82)	2.55(±0.74)	3.92(±1.12)	3.65(±1.27) +
Q47 不満-満足	3.85(±0.94)	3.86(±0.91)	3.47(±0.92)	3.88(±0.75) +

※ 統計的に有意差がみられた項目のみ記載した \*  $p < 0.05$  +  $p < 0.1$

#### IV. 考察

先行研究<sup>8)</sup>と同様、大学生の老人イメージの各項目の平均点は全体的に低く、どちらかという大学生は老人に対して否定的なイメージを持っていた。所属する学部の比較では、看護学生の持つ老人イメージは工学部生に比べ、「愛らしい」「派手な」「バラ色」「忙しそう」「自立的」「生産的」「たくましい」「速い」「開放的」を高く評価していた。看護学生が工学部生に比べて、「主観的-客観的」において「主観的」イメージを持つことは、老人を主体性のある一人の人間として捉えているのかもしれない。また看護学生は工学部生に比べて、「貧弱な」「不安定」とイメージすることは、老人を身体健康面からイメージしていることが影響を与えているのではないかと考える。また、女子学生と男子学生のイメージの違いについて報告<sup>8)</sup>されていることから、看護学生と工学部生の性差の偏りを考慮すると、両学部間の老人イメージの違いには性別による違いが影響していると考えられる。

一般的に老人を否定的にイメージする大学生と同様に、看護学生も老人に対して否定的イメージを持つ傾向があった。この看護学生の特徴をふまえ、肯定的イメージをもてるような老人看護学の教育内容を考え工夫する必要がある。

老人と同居している学生の方が同居していない学生に比べ、老人を肯定的にイメージしていた。全体的にみて、同居群の方が非同居群に比べ「親密な」と強くイメージしていた。このことは、老人と聞いて7割近い学生が祖父母を思い浮かべると報告されていることから<sup>9)</sup>、学生が同居している祖父母を思い浮かべ、老人を身近な存在として感じていたと考えられる。また、同居群は非同居群に比べ、「賢い」「優しい」という精神・情緒面を肯定的に強くイメージしていたことは、吉田らの報告<sup>10)</sup>と一致する。本対象の90%以上の祖父母が健康状態が良好であったことから、健康な老人のいわゆる「年の功」としての熟練に支えられた知恵<sup>11)</sup>を高く評価していたことが考えられる。また、老人イメージ形成においては、同居経験自体ではなく、老人を含む家族関係が重要であると報告されている<sup>8) 9)</sup>ことから、本対象の同居群は、同居する老人との関係が良好であったため、肯定的イメージをもっていたことが予測される。

下宿生が帰省時に老人と同居している場合を同居群に含んでも、7割以上の学生が現在老人とは同居していなかった。多くの学生が老人と接する機会が少なく、老人を身近な存在とはイメージしない傾向があり、老人の知恵を高く評価しない傾向もあると考えられる。

一方、高齢社会に入り、様々なメディアで老人問題が取り上げられているにもかかわらず、今回の調査では、老人問題に関心を持つ学生は約3割であった。老人教育を受けた学生は、受けたことがない学生に比べ、老人を「愛らしい」「賢い」「あたたかい」「親密な」と肯定的にイメージしていることが明らかとなった。また、老人問題に関心があると答えた学生ほど老人を「親密な」と身近な存在としている。一方、高齢社会における諸問題の知識があるために、「狭い」「不満」というイメージを持つと考える。すなわち、老人問題に関心がある学生は相対的に老人を身近な存在として、精神・情緒面を肯定的にイメージする傾向がある。

今回の調査から、現在の大学生の持つ老人イメージが明らかとなった。特に、看護学生は老人を否定的イメージで捉えていることが明らかとなった。今後、この看護学生の持つ特質をふまえた教育実践が必要と考える。

## 老人イメージに関する調査(2) —看護大学生と一般大学生との比較—

## V. 結論

老人看護学教育に役立てるために、看護大学生の老人イメージを明らかにすることを目的とし、一般大学生(工学部生)を対照群として老人イメージの調査を行い、以下の結果を得た。

- 1) どちらかという看護大学生は老人に対して否定的なイメージを持っていた。
- 2) 現在老人と同居している学生は3割に満たなかった。同居している学生は同居していない学生に比べて、老人を身近な存在としてイメージし、老人の知恵を高く評価していた。
- 3) 老人問題に関心を持つ学生は約3割であった。老人問題に関心のある学生は関心のない学生に比べて、老人を身近な存在として、精神・情緒面を強くイメージする傾向があった。

## 謝辞

最後に、調査にご協力いただきました学生の皆様に感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 田島桂子、看護基礎教育における老人看護の位置づけ、看護研究、6(27)、476-484、1994.
- 2) 西川千歳他、看護学生の老人イメージに関する研究(3) —老人看護学の展開と老人イメージの変化—、神戸市立看護短期大学紀要、(13)、97-106、1994.
- 3) 近藤益子他、看護学生の老人施設実習前後における老人観及び老人イメージの変化に関する研究、岡山大学医療技術短期大学部紀要、3、105-113、1992.
- 4) 多田敏子、老人看護学における臨地実習による看護学生の高齢者に対する印象の変化、老年看護学、1(1)、63-70、1996.
- 5) 吉尾千世子他、看護学生の老人に対するイメージの変化、順天堂医療短期大学紀要、4、43-49、1993.
- 6) 小泉美佐子他、看護学生の老人イメージ—Semantic Differential法による分析—、筑波大学医療短期大学研報、(11)、33-39、1990.
- 7) 中尾八重子他、老人のイメージとその要因について(第一報) —看護者、看護短大生、一般短大生の比較—、銀杏学園紀要、(16)、113-118、1992.
- 8) 保坂久美子他、大学生の老人イメージ—SD法による分析—、社会老年学、(27)、22-33、1988.
- 9) 大谷英子他、老人イメージと形成要因に関する調査研究(1)大学生の老人イメージと生活経験の関連、日本看護研究学会雑誌、18(4)、25-38、1995.
- 10) 吉田正子他、看護学生の老人イメージに関する調査(1) —学生の生活背景と老人イメージ—、神戸市立看護短期大学紀要、(11)、55-64、1992.
- 11) 無藤隆他、発達心理学入門Ⅱ、129-132、東京大学出版会、1995.

